



## 「東海の地から労働運動の炎を消すな！」 闘い続けてきた30年の教訓を確認 結成30年記念集会開催

結成30年を迎えた8月11日、JR東海労は静岡市内で「JR東海労結成30年！8.11集会」を開催しました。コロナ禍のため、参加人数を最小限に抑えての開催となりました。集会の座長は畑野副委員長が行いました。

主催者を代表して高山副委員長は「会社は『1年でぶっ潰す』と豪語していたが、結成30年を迎えたことは最大の成果である。御用組合の道を選ばず、労働組合らしい闘いを展開してきた。30年間の教訓を出し合い、JR東海労の未来に向け、全ての闘いを組織強化・拡大に結実させよう」と挨拶しました。

来賓の福島OB会長は、挨拶で「今後に向け情勢などをしっかり勉強しなければならない。リニアについて、自分の会社の経営危機を訴える労働組合は他にはない。これは誇りだ。新幹線をはじめドライバーレス化が進もうとしている。本体の職場はグループ会社化されている。つまり、我々の職場・仕事がなくなると危惧する。これを踏まえた労働運動を考えていかなければならない」と訴えました。

フリー討論で、参加者全員からこの間の闘いや今後に向けての決意が語られました。最後に、本橋書記長のまとめで、集会は成功裡に終了しました。



福島OB会長